疑問を持って生きる事の大切さ：「どうして大学は４年間なの？」

他人の顔色を伺って、親が敷くレールを、思考停止の状態で走り続けた私でしたが、２１歳の時に、日本でのインターン先のインターン生の発言に雷が落ちたかのような衝撃を受けたのを覚えています。

彼の発言は上司伝手に聞いたのですが、彼は面接の際「どうして、大学は４年間なのか？別に５年でも７年でも良いではないか？と常にあらゆる物事に疑問を持って生きるようにしている」とおっしゃっていたそうです。

ただただ、森羅万象の流れ、世の中の決められたルールに対して、従順に従ってきた私にとって、髪の毛が逆立つかのような衝撃的な発言だったのを今でも鮮明に覚えています。

どうも、伝統的では無いルートに対して、恐怖を抱いて生きてきた私にとっては、この逸脱すると言う考え方が新鮮でなりませんでした。

「そうですよね」と、自分で考えて、それが世間一般の生き方とは離脱していても、自分自身が色んな事に疑問を持って、熟考して、比較して、歴史を読んでと言うようにする事、デフォルト、初期設定を変える事こそが、真の自由であって、人生を後悔しない考え方の一つなんだなと納得したわけです。

疑問を持って生きる事。それは、思考停止状態から脱出する方法。イノベーションを起こす方法。何かを変える方法。

選択肢は常にあなた自身にあると言う事を理解する方法。そして、それこそが、子供と大人の違いであり、人間と他の種の違いであり、自由であると思ったわけです。

だから、大学は４年間で無くても良いのです。その教育の意味はあなたが決める事であり、４年間で不十分なら、気が済むまで大学に通えば良いのです。